

14 番（小川義昭議員）

それでは、一応、結論的には来年3月をめどとしているということで理解していればよろしいわけですね。

3点目の質問は、松任工場の跡地利活用策の提言であります。

JRが所有する松任工場の跡地は、約13ヘクタールもある一団の大規模な土地であり、しかもIR松任駅の間近で本市の中心部の一等地であります。このような地価の高い一等地を市が単独で購入することや単独で開発整備をすることは、本市の財政状況からしても無理であり、非現実的かと思われます。また、JRとしても単独での利活用策は考えていないのではないのでしょうか。

そこで、JRが所有する松任工場の跡地利活用策として、国際会議や学会のできるコンベンションMICEの誘致と、白山手取川ユネスコ世界ジオパークビジターセンターの建設構想を提言するものであります。

まず、国際会議や学会のできるコンベンションMICE施設の誘致の提言であります。

MICEとは、社員研修など企業の会議、研修、セミナーなどのミーティングのM、企業などの社員表彰のための報奨、招待旅行などのインセンティブのI、国際会議、学術会議や国際大会のコンベンションのC、スポーツイベントなど各種イベントや展示会、見本市のイベント、エキシビション、イベントのEのそれぞれ4つの頭文字から成るビジネスイベントや国際会議などのことを総称する造語であります。

MICE施設における開催は、企業・産業活動や研究・学会活動などと関連している場合が多いため、開催地域を中心に大きな経済波及効果を生み出し、会議開催、宿泊、飲食、観光などの経済・消費活動の裾野が広く、また滞在期間が比較的長いとされるため、一般的な観光客以上に周辺地域への経済効果を生み出すことが期待されています。

しかも、MICEは地域に大きな経済効果をもたらすだけでなく、ビジネス機会・イノベーションを創出し、都市の競争力・ブランド力の向上にもつながるものであります。

政府は、経済成長戦略の一環として、観光を基幹産業へと成長させ、観光先進国の実現を目指しており、2013年6月、日本再興戦略 JAPAN is BACKを閣議決定し、2030年にアジアナンバーワンの国際会議開催国として不動の地位を築くという目標を明確に掲げました。

また、同月、観光立国実現に向けたアクション・プログラムが関係閣僚会議で決定され、MICEの誘致や投資の促進を図ることが重要だと明確に打ち出しています。

さらに、2016年12月に、MICEの受入環境整備や誘致拡大に関係府省が一丸となって支援するための枠組みとして、MICE推進関係府省連絡会議を設置して、地方自治体や自治体と民間団体が中心となって構成してMICEを誘致する組織であるコンベンションビューロー、さらに、民間事業者単独によるMICEへの誘致・開催に向けた政策を積極的に支援しています。

そして、観光庁は、MICE誘致競争を牽引することができる実力のある都市を育成するために、12の都市をグローバルMICE都市に選定しています。

しかし、これら12のグローバルMICE都市の全ては太平洋側の自治体であり、日本海側には残念ながら1つも存在しません。

また、御承知のように、政府の地震調査委員会は、静岡県の駿河湾から九州の日向灘にかけての南海トラフにおいてマグニチュード8から9の巨大地震が、そして、東京都内においてマグニチュード7程度の首都直下地震が、今後30年以内に70%から80%の確率で起きると予測しています。

このように、近い将来予測される巨大地震によって太平洋側の主要自治体は壊滅的な被害を受けることは明白であります。

そこで、県都金沢市の金沢駅からわずか10分程度のIR松任駅と隣接する広大な敷地の松任工場跡地にMICE施設を誘致することは、白山市はもちろんのこと、近隣自治体や石川県、ひいては我が国にとっても大変有効な施策ではないでしょうか。

しかも、このような環境の中でMICE施設を誘致、立地できる土地は、県内はもちろんのこと、日本海側でもこの広大な松任工場跡地以外にはないのではないのでしょうか。

北陸新幹線敦賀延伸開業に伴い、JR北陸線の廃止により、サンダーバードやしらさぎといった特急列車は、当然IR松任駅には停車しません。しかも、県内で新幹線が停車する自治体は金沢市、小松市、加賀市のみです。将来のことを考えると、現状のままでは白山市は小松市や加賀市の後塵を拝する自治体になりかねません。

そこで、松任工場の跡地利活用策として、30年後、50年後、いや100年後の白山市の将来を見据えると同時に、今後30年以内に70%から80%の確率で起きると予測されている首都直下地震、南海トラフ巨大地震も考慮に入れて、松任工場跡地に日本海側で唯一のコンベンションMICE施設の建設構想を提言します。

次に、特別な場所という意味のユニークベニューという言葉があります。

例えば、博物館や美術館、歴史的建造物、神社仏閣、城郭、そして庭園や公園などの屋外空間などが該当します。

近年、都市としての差別化になるとの考え方から、その地域にしかないポテンシャルを持った歴史的建造物や空間などを有効に利用し、特別感や地域の特性を演出したりするユニークベニューの活用が積極的に行われています。

本市にとって、ユニークベニューとして大きな期待が予想される日本で10か所目となるユネスコ世界ジオパークに認定された白山手取川ユネスコ世界ジオパークビジターセンターを併設することによって、MICE誘致への大きな鍵にもつながっていくのではないのでしょうか。

そこで、次の提案は、白山手取川ユネスコ世界ジオパークビジターセンターの建設であります。

昨年5月24日、白山手取川ジオパークが日本で10か所目となるユネスコ世界ジオパークに認定されました。ユネスコ世界ジオパークの取組として、単に地球科学的な遺産の保護・保全だけではなく、遺産を活用した教育活動や地域経済活動の推進を図り、本市のさらなる発展へと寄与するのはもちろんのこと、地球環境や国際社会の維持・発展への貢献にもつなげていかななくてはなりません。

そこで、大地と人の暮らしの関わりを実感して楽しむというジオパークの視点から、白山手取川ジオパークの魅力を幅広く国内外に発信する拠点・中核施設としての世界ジオパークビジターセンターの建設を提言するものであります。

プロジェクションマッピングによる迫力ある画像や白山手取川ジオパークの地質学的なストーリーの展示、解説や体験メニューはもちろんのこと、エリア内の観光やイベントなど、地域の様々な情報を総括的に集約させることにより、白山手取川ジオパークに数多く存在する地域資源を生涯学習や学校教育の場にとどまらず、新たな観光資源として活用するものであります。

地域振興に生かすジオパークの活動を通じながら世界ジオパークブランドを活用し、さらには、白山手取川ジオパークを通じて市民の郷土愛の醸成と経済への好循環を目指し、継続的な取組を行うための拠点施設とするものであります。

したがって、本市の地域振興策の一環として、また、田村市長が強い思いを寄せるジオパーク教育との連携も含め、コンベンションMICE施設と併せて、白山手取川ユネスコ世界ジオパークのビジターセンターの建設を検討してはいかがでしょうか。

ユネスコ世界ジオパークは、単に白山市だけの財産ではなく、石川県の財産でもありますので、馳県知事としっかりと連携を取っていただき、県立の施設として整備するのにも一考かと思えます。

以上がJRが所有する松任工場の跡地利活用策の提言であります。

しかし、この壮大な構想の実現は、JRと本市だけで実行することは到底不可能であります。しかも、この壮大な構想による経済波及効果の恩恵は、本市だけに限らず、金沢市をはじめ4市2町で構成する石川中央都市圏の各自治体や地域振興ビジョン策定協議会のメンバーでもありました能美市、川北町にもその効果が波及することは必定であります。

そこで、JRと本市、そして県も巻き込んで、石川中央都市圏の各自治体に加えて、能美市、川北町とも連携を取り、加えて、国からの力強い協力支援を受けて、この壮大な構想の実現に向けて進むべきかと考えます。

ぜひ松任工場跡地に日本海側で唯一の国際会議や学会のできるコンベンションMICE施設の誘致と、そして、世界ジオパークビジターセンターの建設構想を提言いたします。

田村市長のお考えをお伺いします。